

教職員のワーク・エンゲイジメントの向上

—職場の強みを伸ばす取り組みを通して—

教育実践高度化専攻 学校マネジメントコース

佐藤 伸夫

本研究の目的は、職場の強みを明らかにし、その強みをさらに伸ばす取り組みを通して教職員のワーク・エンゲイジメントを向上させることである。

A県N市立M小学校の教職員19名を対象に、強みの可視化アンケート、行動目標の設定、共有と振り返りを繰り返し行った。また、UWES-Jによるワーク・エンゲイジメントの測定と半構造化インタビューを5月から12月にかけて実施した。

量的分析では、ワーク・エンゲイジメント得点が有意に上昇し ($d=0.47$)、取り組みが肯定的に作用した可能性が示された。質的分析では、同僚のサポートが「安心して相談できる」段階から「自然に支援が生まれる」段階へと深化し、協力も「依頼ベース」から「自発的協働」へと変化した。働きやすさは心理的安全性に基づくものへ、働きがいは承認・成長機会へと広がり、職場の強みが仕事の資源として機能したことが確認された。これらの変化がワーク・エンゲイジメント向上の背景にあると考えられる。

本研究は学校現場で実施可能な介入モデルを提示した点で意義がある。